

小瀬川水系大規模氾濫時の減災対策協議会



太田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会

## 「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づく 太田川、小瀬川流域の減災に係る取組方針

平成27年9月関東・東北豪雨では、記録的な大雨により鬼怒川の堤防が決壊しました。

この災害を踏まえ、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、国土交通省は、社会全体で洪水に備えるため「水防災意識社会再構築ビジョン」を策定しました。

このビジョンに沿って、全ての国管理河川とその沿川市町村において、平成32年度を目標に、ハード対策とソフト対策が一体となった水防災意識社会を再構築する取組を行います。

太田川水系は11月9日、小瀬川水系は9月29日に概ね5ヶ年で実施する具体的な取組方針が決定しました。

今回は、太田川、小瀬川における具体的なハード対策及びソフト対策について紹介します。

### 水防災意識社会 再構築ビジョン

関東・東北豪雨を踏まえ、新たに「水防災意識社会 再構築ビジョン」として、全ての直轄河川とその沿川市町村(109水系、730市町村)において、平成32年度目標に水防災意識社会を再構築する取組を行う。

**<ソフト対策>**・住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう、より実効性のある「住民目線のソフト対策」へ転換し、平成28年出水期までを目途に重点的に実施。

**<ハード対策>**・「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」に加え、氾濫が発生した場合にも被害を軽減する「危機管理型ハード対策」を導入し、平成32年度を目途に実施。

#### 主な対策

各地域において、河川管理者・都道府県・市町村等からなる協議会等を新たに設置して減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的・計画的に推進する。

**<危機管理型ハード対策>**  
○越水等が発生した場合でも決壊までの時間を少しでも引き延ばすよう堤防構造を工夫する対策の推進

【被害軽減を図るための堤防構造の工夫(対策例)】  
法裏被災  
天然のアスファルト等が、越水による侵食から堤体を保護(鳴瀬川(水俣市)田川、平成27年9月関東・東北豪雨)



**<洪水氾濫を未然に防ぐ対策>**  
○優先的に整備が必要な区間において、堤防のかさ上げや浸透対策などを実施



**<住民目線のソフト対策>**  
○住民等の行動につながるリスク情報の周知  
・立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表  
・住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良  
・不動産関連事業者への説明会の開催

○事前の行動計画作成、訓練の促進  
・タイムラインの策定

○避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供  
・水位計やライブカメラの設置  
・スマホ等によるプッシュ型の洪水予報等の提供

※家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う、激しい氾濫流や河岸侵食が発生することが想定される区域

出典：大規模氾濫に対する減災のための治水対策のあり方 答申 参考資料

## 【ハード対策】

太田川と小瀬川で施工を予定しているハード対策には、「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」と「危機管理型ハード対策」の2つのメニューがあります。

### ① 洪水氾濫を未然に防ぐ対策

堤防の高さが低く、当面の整備目標に対して流下能力が不足している箇所には、堤防を整備するほか、洪水時に堤防内へ雨水や河川水が浸透することにより、堤防が決壊するおそれのある箇所には漏水対策を行います。

### ② 危機管理型ハード対策

当面の整備目標とする堤防整備までに相当な期間が必要となる箇所について、洪水が堤防を越流し決壊にいたるまでの時間を少しでも引き延ばすことができるよう、堤防天端や堤防裏法尻部の保護を行います。

以上2つのメニューは、平成32年度の完成を目標としています。

### 太田川における「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」



天満川の整備イメージ

### 小瀬川における「洪水氾濫を未然に防ぐ対策」



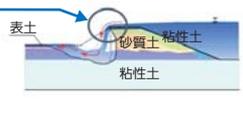
小瀬川の整備状況

### 太田川における「危機管理型ハード対策」

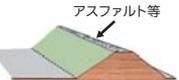


#### 堤防天端の保護

堤防天端をアスファルト等で保護し、法肩部の崩壊の進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防天端をアスファルト等で保護した堤防では、ある程度の時間、アスファルト等が残っている



#### 堤防裏法尻の補強

裏法尻をブロック等で補強し、深掘れの進行を遅らせることにより、決壊までの時間を少しでも延ばす



堤防裏法尻をブロック等で補強

※小瀬川における「危機管理型ハード対策」はありません

# 【ソフト対策】

## ① 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

- 洪水氾濫を未然に防ぐ対策（ハード対策 前頁参照）
- 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備（水位計、CCTVの設置）
- 想定最大規模降雨における洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップの作成・周知等
- 地域の防災活動等の支援
- 多様な防災活動を含むタイムラインの作成
- 防災教育や防災知識の普及

## ② 地域別の氾濫特性に応じた効果的な水防活動

- 避難行動、水防活動に資する基盤等の整備（水位計、CCTVの設置）
- 水防活動の効率化及び水防体制の強化

## ③ 浸水を一日も早く解消するための排水対策

- 排水計画の作成及び排水訓練の実施

## ④ ダムの効果的・効率的な運用

- 温井ダム、弥栄ダムの効果的・効率的な運用

防災教育や防災知識の普及



危険な箇所への水位計の設置



氾濫の危険性をリアルタイムで提供

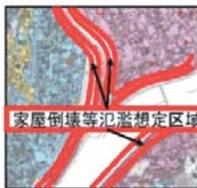


## 住民目線のソフト対策

○水害リスクの高い地域を中心に、スマートフォンを活用したプッシュ型の洪水予報の配信など、住民が自らリスクを察知し主体的に避難できるよう住民目線のソフト対策に重点的に取り組む。

### リスク情報の周知

○立ち退き避難が必要な家屋倒壊等氾濫想定区域等の公表  
⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約70水系、平成29年出水期までに全109水系で公表



○住民のとりべき行動を分かりやすく示したハザードマップへの改良  
⇒「水害ハザードマップ検討委員会」にて意見を聴き、平成27年度内を目途に水害ハザードマップの手引きを作成

○不動産関連事業者への説明会の実施  
⇒水害リスクを認識した不動産売買の普及等による、水害リスクを踏まえた土地利用の促進

### 事前の行動計画、訓練

- 避難に着目したタイムラインの策定
- 首長も参加するロールプレイング形式の訓練



⇒平成28年出水期までに水害リスクの高い約400市町村、平成32年度までに全730市町村で策定

### 避難行動のきっかけとなる情報をリアルタイムで提供



⇒平成28年夏頃までに洪水に対しリスクが高い区間において水位計やライブカメラを設置  
・平成28年出水期からスマートフォン等によるプッシュ型の洪水予報等の配信を順次実施

# 矢口排水機場建設の 関連工事に伴う 通行止めについて

矢口川総合内水緊急対策事業は、平成 29 年度の完成を目標に鋭意工事を進めており、今後は矢口川の洪水を太田川に排水する樋門工事や上屋建築工事、新設する排水ポンプ設備の据付工事など、事業の最終段階を迎える状況まで進んでまいりました。

このたび、樋門工事の施工に伴い堤防を開削するため、平成 28 年 10 月 26 日より長期の終日全面通行止めとなっております。

ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をいただけますようお願いいたします。



通行止め区間: 県道271号八木広島線

弘住神社前交差点～安佐大橋(東)交差点

通行止め期間: 平成28年10月26日～平成29年6月下旬

問合せ先: 国土交通省太田川河川事務所

大芝出張所 ☎ 082-237-3404



# 平成26年8月20日に発生した広島豪雨土砂災害に対する 緊急事業の進捗について

国土交通省太田川河川事務所では、平成 26 年 8 月 20 日に発生した広島豪雨土砂災害により、特に著しい被害が生じた 24 渓流において、一昨年の災害時に崩れて渓流に残っている不安定な土砂に対し安全性を確保する緊急事業（以下「緊急事業」という）として 25 基の砂防えん堤工事を進めてきました。

このうち、平成28年9月末までに23基については緊急事業を完了し、1基は鋭意工事を進めているところです。残る1基の安佐南区緑井8丁目の渓流（植林川支川）の砂防堰堤について、用地の確保ができず工事に着手できていませんでしたが、この度、用地の確保ができたため平成28年10月11日に砂防えん堤設置場所まで進入するための工事用道路の工事に着手しました。

工事用道路工事完了後、引き続き砂防えん堤本体工事に平成29年1月に着手し、来年の梅雨時期までに緊急事業の完了を目指します。

今回工事に着手する渓流は、緊急事業24渓流25基のうち最後の砂防えん堤となり、完成すると一昨年の広島豪雨土砂災害に係る緊急事業が完了します。なお、緊急事業が完了した渓流では、引き続き安全性を高める工事を行って参ります。



砂防えん堤完成イメージ

